

平成26年度 地域志向教育研究プロジェクト推進事業 事業報告書

番号	5		
①プロジェクト名称：	マーケティング調査法講習会による野々市市の商店街活性化プロジェクト		
②プロジェクトメンバー：			
学部学科・所属部署	氏名	役割	
情報フロンティア学部 心理情報学科	神宮 英夫	統括・統計	
情報フロンティア学部 心理情報学科	田中 吉史	調査設計	
情報フロンティア学部 経営情報学科	武市 祥司	戦略立案	
産学連携推進部 連携推進室	竹内 諭	市の調整	
③プロジェクトへの参加者数（補助期間終了時）			
学部1～3年次生	研究室所属学生（大学院生含む）	外部参加者数	
12名	1名	4名	
④関連した主要授業科目名			
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
消費者心理学	3	選択	心理情報
主な特徴：消費者行動について心理学の視点から学ぶ内容で、身近な地域の商店を対象にしたリサーチを半期にわたって、授業進行にあわせて、内容の発表を聞き既習内容の復習を行なった。			
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
カスタマー・リレーションシップ・マネジメント	3	必修	経営情報
主な特徴：顧客情報を収集して分析して、商店が提供する商品・サービスが、顧客にとって価値あるものにするための手法を学んだ。			
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
主な特徴：			
⑤事業概要（800字以上1000字以内）			
<p>商店街を活性化させるためには、顧客のニーズを把握して、そのニーズを満足できるような戦略を立てて実行に移す必要がある。ニーズの把握には顧客アンケート調査の実施が、また戦略立</p>			

案には経営コンサルタントへの相談などが広く行われているが、調査会社やコンサルティング会社などへの依頼には高額な費用が必要である。商店街の店主が自ら調査して、分析して、戦略を立てることができれば、費用も少なく、実情に見合った対処を策定することが可能になる。そこで、調査用紙の設計、調査の実施方法、結果の分析、分析結果からの戦略立案の一連の過程を、野々市市内の商店街の人たちに教授して実施を支援することによって、商店街の活性化に寄与することが本事業の狙いである。

ところで、心理情報学科においては、質問紙調査の方法に関しては、「心理学研究法」や「専門実験」で内容として取り上げている。調査結果の分析に関しては、「応用心理統計法」で統計全体を扱っている。さらに、経営情報学科においては、「カスタマーリレーションシップマネジメント」「マーケティング戦略」などで事業展開の戦略立案について取り上げている。このような授業を実施している心理情報学科と経営情報学科が協力して、野々市の商店街の活性化を手助けしようとするのが本事業の目的である。

具体的には、上記の授業を受講した心理情報学科と経営情報学科の両学科の2・3年生が学生講師となり、商店街の店主を対象とする講座を開設する。講座内容として、マーケティング調査の方法、マイクロソフト・エクセルを使用する調査結果の分析手法、調査結果からの戦略立案法、を予定している。なお、本事業は単なる座学講義ではなく、参加の学生たちが実際に調査を実施して、店主とともに戦略を立案するところまでを想定している。なお、本事業の補助期間終了後も、店主たちが調査・分析・戦略立案を自ら行うことができるように講座内容を配慮して組み立てる。

このように心理情報学科と経営情報学科の教員と学生が協力して、野々市市内の商店街の活性化を目指すことが本事業の特色である。本事業の意義は、野々市市内の商店街の活性化という地域貢献だけではない。学生たちは授業で学んだことを店主たちに教授し、さらに知識を適用する実地体験を積むことにより、より深い理解を得ることを可能とする貴重な学びの場を提供することも本事業の重要な意義である。

⑥地域志向教育研究プロジェクトの活動実績

前学期から夏休みにかけて、質問紙調査法やマーケティングに関する演習と富山市のマーケティング企業での研修を行い、その成果を元に、後学期に、本学近隣（野々市市・金沢市）の4店舗のマーケティング調査を行うとともに、3回の講習会（質問紙の作成・結果の解析・結果を受けた提案）を行った。

1. 近隣店舗・企業とのマーケティング調査

野々市市商工会議所等を通して協力店舗を募集し、4店舗（不動産、飲食、サービス業）とのコラボレーションによるマーケティング調査を行った。

4店舗のマーケティング調査では、学生はチームごとに担当店舗を決め、商店とコンタクトをとり、店舗が現在抱えている問題点、それに対してどのような取り組みを行っているか、今回のマーケティング調査で何を期待されているかを聞き取り調査することから開始した（写真1）。そして、解決に向けて必要な情報やデータを検討し調査計画を立て、各店舗の実情にあわせて質問紙、観察法、インタビューなどの手法を用いた調査を実施してきた。いずれも、前学期中にプ

プロジェクト内で行った演習のみならず、これまでの授業で学習してきた内容を、実社会での問題解決に活用する形で行われている。これらの成果は、平成 27 年 3 月 4 日に行う公開の報告会で発表する予定である。

さらに、3 年生対象の後学期科目の『消費者心理学』(心理情報学科)では、4 回のワークショップを実施して、プロジェクト参加学生以外の受講学生の意見を聞き、このことをプロジェクト活動に活かすとともに、実社会での体験を他の学生にも伝授することができた。



写真 1 店舗からの聞き取り調査

2. アンケート調査講習会

平成 26 年 12 月、マーケティング調査に協力いただいている店舗を対象としたアンケート調査講習会を行った。講習会は、表 1 に示す内容の 3 回から成り、各回とも学生が講師を担当した(写真 2)。3 店舗から全 4 名の参加者を得て、各参加者 1 名と学生 3~4 名からなるグループでディスカッションを重ねながら調査用紙の設計から分析と提案までを実習し、今後各店舗で自立的に調査ができるような手立てを提示してきた(写真 2,3)。

表 1 アンケート調査講習会の構成

第 1 回	全体ガイダンスとアンケート用紙の作成 調査目的の明確化、質問項目を設定、アンケート用紙の作成
第 2 回	調査の実施と集計・分析 Excel による調査結果の分析実習
第 3 回	調査結果の報告会 プレゼンテーションと今後の展開に向けてのディスカッション



写真 2 学生が講師を務める講習会



写真 3 学生と参加者によるディスカッションを通じたアンケート作成

講習会参加者からは、「調査目的を明確化する過程で、自分の考えを整理することにつながった」といった感想が寄せられた。また、店舗によっては独自にアンケート調査を行っていたが、「項目や方法を見直したい」「これまでアンケートを取っても十分な分析を行ってこなかったが、データ

を数量的に分析することの重要性を実感した」といった、これまでの活動の改善に向けての具体的なヒントにもなったようである。また、第3回の調査結果の報告会では、異業種の参加者同士の意見交換なども行われた。

さらに、この講習会への参加がきっかけで、学生が各店舗で行っているマーケティング調査が活発化する、といった効果もあった。

⑦地域志向教育研究プロジェクトの具体的な成果

大学以外の地域社会の人たちと接することで、コミュニケーション能力はもちろんのこと、責任を持ってプロジェクトを進める意識が大きくなってきた。また、授業の中で、今までの活動を節目節目に他の学生たちにプレゼンをすることで、多様な視点からのアイデアを得るとともに、授業内容のより深い理解につながったと思われる。

具体的には、学生に身につけてほしい能力として以下の6つを設定した。

- 1) 主体性 物事に進んで取り組む姿勢
- 2) 課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 3) 実行力 目的を設定し確実に行動する力
- 4) 発信力 自分の意見を分かりやすく伝える力
- 5) 分析力 分析ツールなどを使い分析する力
- 6) 創造力 新しい価値を生み出す力

これらの各能力について、学生メンバー全員に計3回のアンケート調査を行い、学生の成長を把握するように努めた。具体的には、各能力に関して2つの設問（全12問）を5段階評価のスコアリング形式（5：充分身につけている⇔1：全く身につけていない）にて自己評価する。まったく同じ設問に対して、第1回調査は2014年10月、第2回調査は12月、第3回の最終調査は2015年1月に実施した。この結果、表に示すように学生メンバー全員の平均では、すべての能力の向上がみられ、本プロジェクトでは大いに学生が成長できたと推察される。

表2:本プロジェクトに関連する能力の伸び

	1回目の平均	3回目の平均	平均の差
主体性	3.2	4.2	1.0*
課題発見力	3.2	4.3	1.1*
実行力	3.3	4.4	1.1*
発信力	3.1	3.9	0.8*
分析力	2.6	3.8	1.2*
創造力	3.1	4.1	1.0*
			*は5%有意

⑧次年度以降の活動予定

平成26年度の活動によって得られたノウハウを、調査・分析・戦略立案のためのマニュアルとしてまとめたものを、平成27年度の活動を通してより洗練されたものにして、本事業終了後に、学生によるマーケティング調査会社の設立を目指している。石川県内には、マーケティング調査会社が少なく、大都市圏の大手や県外の会社に委託しているのが現状である。地域に密着した調査会社の設立は、地域社会の発展に大いに貢献できると期待される。